

☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉碎し、世界革命戦争—世界プロ独を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に組織せよ！

1979年  
12月5日  
第327号

# 烽火

共產主義者同盟（全國委員會）

- 大阪戦旗社 大淀区本庄東2丁目2の31  
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
  - 郵便振替 大阪—6333
  - 銀行口座 第一勧銀 515-1058150

# 開始された激動を 革命的危機へ転化せよ

民主・統一かかげ、朴なき維新  
体制下でたたかう南朝鮮人民  
との熱烈な連帶をかちとれ！

全国の同志諸君！たたかう労働者人民諸君  
南朝鮮情勢—釜山、馬山の決起と朴射殺事件は、イラン、ニカラグア革命に引き  
続く民族解放闘争の歴史的、スウ熱的發展と、世界資本主義の危機がその新植民地  
主義支配体制の戦略的要衝（ペルシャ湾、朝鮮など）における解体的危機として噴  
出し始めたことを示した。

国内的には衆院選以降の一ヶ月にわたる政治空白と自民党の内紛は、慢性的の政府  
危機とそこにおけるブルジョワ民主共和制の腐敗とらん熱、一層の形骸化を一挙に  
露呈した。

「帝国主義論」の社会革命の前夜であることは一九一七年以來、世界的規模で確証された」（帝国主義論）。いまふたたび、三たび社会主義の諸条件は成熟し、醸酵しあげてゐる。

政府打倒を掲げた反政府闘争の持続的昂揚、労働運動の大衆的分裂を二大焦点とした流動と分解のなかに位置している。これを中間連合政府攻撃一ブルジョワ権力再編の内部に吸収され戦争とファシズムの準備、大動員の道へと進められるのか。それとも、これを領導し社会主義革命の壮大な展望を切り拓く闘争と組織の建設でこたえるのか。これをめぐった党派再編が急激に進行している。それは権力問題をめぐる闘争であり、社会主义をめぐる闘争である。

三里塚二期工区決戦を、八〇年安保一産報化とたたかう全人民の一大戦闘拠点とせよ。戒厳令下でたたかう南朝鮮人民の不屈の決起と連帯し、十一・一二をもつて発したこの大号令を深く、そして広く全人民のなかへおし進め、中央集権非合法党建設の巨大な水路を切り拓こう。

産報化とたかう全人民の一大戦闘拠点とせよ。戒厳令下でたかう南朝鮮人民の不屈の決起と連帶し、十一・一二をもつて発したこの大号令を深く、そして広く全人民のなかへおし進め、中央集権非合法党建設の巨大な水路を切り拓こう。

A black and white photograph capturing a moment of industrial activity or protest. A large crowd of men, dressed in dark clothing typical of the era, has gathered around a stationary steam locomotive. Several men are perched on top of the engine, while others stand on the ground or near the train car. The setting is an industrial area, with brick buildings, wooden structures, and utility poles with wires visible in the background. The overall atmosphere is one of a significant event, possibly a strike or a major transport disruption.

## 冬期一時金カンパの要請

共產主義者同盟（全國）

動、在  
る。夏期・冬期

かいと  
年代のわが中央

三里塚二期工区  
日本階級闘争の  
実現す

前決

合されなければならぬ。この財政的基礎は、  
党员とシンパの定期的な献金、党の独自の事

## 南朝鮮階級闘争と 共産主義者の任務

南朝鮮情勢は激動している。Y.H.貿易事件、野党新民党弾圧を引き金とした鬭争の激化はついに釜山、馬山の暴動的決起へと至った。それは朴体制の根幹を揺るがし、朴体制の要ともいえるK.C.I.A部長（金載圭）による朴射殺事件を惹起させた。

一九六一年五月の軍事クーデターから一八年  
である。濟州島を除く全土に非常戒厳令がし  
かれ、崔圭夏首相が大統領代行に任命された。  
米帝は即座に「クーデター」と断定し、在韓  
米軍三万八千人を厳戒体制につけた。この事  
件の全过程は朴体制の内部からの瓦解である  
と同時に、有形・無形に「朴なき継新体制」  
を目論んだ米帝によつて仕組まれた政変であ  
る。ラテンアメリカで、そしてかつてのベト  
ナムで米帝による流血のカイライ政権の再編  
があつた。韓国の政権一国家は米日帝の従属  
下にあるのだ。

何であるのか。それは第一に国内階級闘争の持続的昇場とその新たな展開の始まりである。まさに局面は朴がプロレタリア人民の力によって打ち倒されるか否かの決定的局面に入りつつあつたからにほかならない。第二にそれが朴の「高度成長」の破たん、物価高騰、むき出しの大衆収奪に示される韓国経済の破局的危機の進行と鋭く結びついているがゆえである。そして第三にアジアにおける侵略反革命体制の再編、強化と護持のために国内階級闘争を鎮静化させ、朴体制を「朴なき維新体制」としてでも米帝におし進めざるをえないからであり、米日帝間の対立がその背後には存在している。

YH貿易事件は、こんにちの韓国経済の危機と弾圧下での労働者の決死的決起の象徴的事態であった。そもそもYH貿易とは六〇年代に政府の輸出振興政策によって急成長をとげた企業であったが、七〇年代に入つてアメリカへの会社財産の横流しをおこなう一方で、経営不振の口実のもとに七七年から一年半のあいだで、一八〇〇人の従業員を六〇〇人に減らし本年三月には一方的な廃業を公告したのであった。

これにたいして女性労働者は公告の撤回と生存権の保障を要求してろう城闘争を会社一寄宿舎でたたかいつづけた。八月七日警察により強制解散後、新民党舎で「警察が強制的に解散させようとするなら全員死のう」とい

う決議文を採択し、要求をかけ決死的なる  
警による武装襲撃によって金景淑さん<sup>キム・ヨンサク</sup>が虐  
殺され、多数の負傷者と逮捕者を出して強制  
解散させられたのである。このYH貿易事件  
の背景は八月七日に金景淑さんが、母親へあ  
て書いた手紙に明らかである。「オモニ！  
ここを辞めて他に就職しようとしても、引き  
続く物価上昇により、失業者たちが日毎に増  
えています。職を探すこともできない実情で  
す。またここで働く年幼い労働者たちのため  
に最後まで団結して私たちはず勝利するで  
しょう」。以降朴政権は、ますます新民党弾圧  
を強化し、金泳三総裁の「総裁団職務停止」  
決定を司法権力におこなわさせ、同裁の国  
会除名決議を警察力をもつて野党議員排除の  
もとで強行したのであった。

経済の破局的危機の進行へと至ったのである。そもそも朴の「高度成長」とは外資導入と借款にもとづいた輸出急増であり、外資系企業の輸出が輸出総額の五〇%以上を占めているのである。そして他方で韓国労働者の飢餓貨金と團結権・団体交渉権・団体行動権の労働三権を完全に奪われた無権利状態、長時間労働と劣悪な労働環境のもとでの「安価な労働力」という、帝国主義による典型的な新植民地主義の構造で成り立ってきた。したがって高度成長の破たんはかかる矛盾を一挙に加速化する以外ないのである。

最後にわれわれは現下の帝国主義の侵略反革命体制の再編・強化とその護持についてふれておこう。米帝にとって南朝鮮は、ペルシヤ湾とならぶ侵略反革命体制の戦略的要衝である。本年におけるチームスピリット<sup>79</sup>、フオートレスゲイルの両作戦に示されるように朝鮮侵略反革命戦争を実際に想定した米日韓体制が強化されている。米帝にとって、朝鮮半島を絶えざる軍事的緊張下に維持することは至上命令ですらあるのだ。だからこそカーテーは人権外交なるベルで包まれた「緊急措置九号の解除」などを欺瞞的にかけ国内階級闘争を鎮静化させんと目論んでいたのである。また日帝は朴の維新体制と一体化した新植民地主義的権益を自己の命脈とし、同時に米日韓体制のもとで、山下訪韓に示される独自の日韓軍事体制へと走り始めたのだ。

いまわれわれは朴射殺事件に示された南朝鮮の激動する情勢を明らかにしてきた。それはこんにちにおける国際階級闘争の新たな運動的活性化局面を鮮やかに示している。ではわれわれ日帝足下のプロレタリアートは南朝鮮人民の決起といいかに連帶しきらねばならぬのであろうか。

三氏の新民党総裁への就任とそれとともにない  
在野勢力の合流は、朴維新体制の維新国会の  
一角を大きく突きくずした。韓国経済の破局  
的危機の進行のもとでの労働者の決死的闘争  
の激発、多数の市民をまきこんだ大規模な反  
政府デモの暴動的決起。事態はまさに朴打倒  
の前夜的情勢をつくりださんとしていたがゆ  
えに朴は、なりふりかまわぬ戒厳令弾圧をも  
つてしか自己の政権を延命させるべき方途を  
もたなかつたのである。

つぎにわれわれは韓国経済の破局的危機の  
進行についてふれていこう。一九六二年以降  
の経済開発五ヶ年計画により、「漢江の奇跡」  
と呼ばれる「高度成長」をとげた韓国経済は

その頂点において一九七七年輸出百億ドルの達成におよんだ。しかし「高度成長」は破たんの色を次第に濃くしていく。本年四月の大副価格引上げ、七月のOPEC石油価格引き上げの影響による石油類五九%、公共料金三五%以上の引き上げによってインフレは加速の一途をたどつた。それと連動した輸出競争力の低下、輸入原材料の価格高騰による貿易赤字の拡大。貿易依存度の高い繊維・化学工業へのそのあたりと、中小企業の操短、休廃業、賃金未払いの大量解雇。新興財閥の一つである栗山実業の倒産、などに象徴される破局的様相はきわだつたものとなつた。「高度成長」の破たんはそのもとで存在し

経済の破局的危機の進行へと至ったのである。そもそも朴の「高度成長」は外資導入と借款にもとづいた輸出急増であり、外資系企業の輸出が輸出総額の五〇%以上を占めているのである。そして他方で韓国労働者の飢餓貨力」という、帝国主義による典型的な新植民地主義の構造で成り立ってきた。したがって高度成長の破たんはかかる矛盾を一挙に加速化する以外にないのである。

最後にわれわれは現下の帝国主義の侵略反革命体制の再編・強化とその護持についてふれておこう。米帝にとって南朝鮮は、ペルシヤ湾とならぶ侵略反革命体制の戦略的要衝である。本年におけるチームスピリット79、フォートレスゲイルの両作戦に示されるように朝鮮侵略反革命戦争を実際上には想定した米日韓体制が強化されている。米帝にとって、朝鮮半島を絶えざる軍事的緊張下に維持することは至上命令ですらあるのだ。だからこそカーターは人権外交なるペールで包まれた「緊急措置九号の解除」などを欺瞞的にかけ国内階級闘争を鎮静化させんと日論んでいたのである。また日帝は朴の維新体制と一体化した新植民地主義的権益を自己の命脈として、同時に米日韓体制のもとで、山下訪韓に示される独自の日韓軍事体制へと走り始めたのだ。

いまわれわれは朴射殺事件に示された南朝鮮の激動する情勢を明らかにしてきた。それはここにちにおける國際階級闘争の新たな流動的活性化局面を鮮やかに示している。ではわれわれ日帝足下のプロレタリアートは南朝鮮人民の決起といかに連帶しきらねばならないのであろうか。

崔圭夏大統領代行による現政権は「維新体制の緩和」をかけながらも、維新憲法下の國權の最高機關である統一主体国民會議による崔圭夏の大統領選出をもつて朴なき維新体制の継続へと突き進まんとしている。それは依然として「独裁、分断、カイライ」政権であり、その破産は必ずや直接的な軍部独裁支配への道を掃き清めるいがいにはないであろう。「民主回復」への道は、日米帝の侵略反革命体制とのたたかいを通して真の解放への第一歩としてきりひらかれるのだ。だからそ

の首尾一貫した道は、民族解放・社会主義への道によつて可能なのである。日本プロレタリア人民は、米帝の侵略反革命体制とたたかい、不屈にたたかう南朝鮮人民との連帶をいまこそ強化してゆかねばならない。

南朝鮮人民の解放の道は、そして日本プロレタリアートの結合の道は、朝鮮労働党との国际党派闘争と結びついた南半部における單一の革命党の創建であり、そこに最大の犠牲的援助と連帶の立場がつらぬかれねばならないのだ。

南朝鮮、イラン情勢に示される国際階級闘争の局面をわれわれは中国一ベトナム戦争以外の位置を持ちながらも、民族国家間戦争という外被に閉殺されているがゆえに、以降の国際共産主義運動の局面を社帝にからめられてゆく構造を生み出している。それは一方では、九月非同盟諸国会議におけるソ連社帝の影響力の浸透、キュー・バによる「ソ連との結合」の打ち出しなどとしてあらわれている。他方で先進国社帝の動向がある。わが日共は「前衛11月号」で、中国一ベトナム戦争についてして「米日中三国同盟の国際的陰謀を暴く」と称して(4)ヘン・サムリン政権の樹立とベトナムの支援はポル・ボト政権下での残虐な支配からの人権回復である(2)中国一ベトナム戦争は中国による侵略戦争である(4)難民問題はベトナムに責任があるのでないが、それが国家間緊張の原因になつていて以上それは人道的に解決されねはならない、などと主張している。日共は中国一ベトナム戦争が「平和と民主主義と繁榮」をめぐる闘争だといふるめいている。だがそれは社会主義をめぐる闘争であり、社会帝国主義への転化をめぐる闘争である。

革命的ブルジョアジーはこの新たな国際共産主義運動の大分裂の開始を、過渡期世界止揚の主体的動因へと転化すべく、社会帝国主義と死力をつくしてたたかわねばならない。十月衆院選以降のブルジョア議会政治をめぐる情勢の急速な展開は、支配者階級の政治支配の巨大な動搖と、五五年体制にかかる新たな政治支配体制の確立をめざす敵の八〇年代戦略の一端を鮮やかに浮びあがらせた。十月、大平は「安定多数の獲得」を標榜し自民党内反主流派の反対をおしきつて衆院解散、総選挙を強行した。しかし自民党は「安定多数」の二七一議席を大巾に下回る二四一議席を得たにすぎず、これを引き金にして選舉責任をめぐる自民党内抗争が激化し、十一月首相指名選挙において自民党から大平と福田が同時に立候補するという事実上の分裂にいたった。新自由クラブとの首相指名選挙での提携をもつてからうじて成立にこぎつけた大平新内閣は、文相への田川(新自ク)起用の打診にみられるように「部分連合」の道に一步ふみだすことによつてしか自己の難局をのりきることができず、これがふたたび自民党内抗争の火種となつた。

また十月衆院選では新自由クラブの大巾議

## 慢性的の政府危機と権力再編

十月衆院選以降のブルジョア議会政治をめぐる情勢の急速な展開は、支配者階級の政治支配の巨大な動搖と、五五年体制にかかる新たな政治支配体制の確立をめざす敵の八〇年代戦略の一端を鮮やかに浮びあがらせた。十月、大平は「安定多数の獲得」を標榜し自民党内反主流派の反対をおしきつて衆院解散、総選挙を強行した。しかし自民党は「安定多数」の二七一議席を大巾に下回る二四一議席を得たにすぎず、これを引き金にして選舉責任をめぐる自民党内抗争が激化し、十一月首相指名選挙において自民党から大平と福田が同時に立候補するという事実上の分裂にいたった。新自由クラブとの首相指名選挙での提携をもつてからうじて成立にこぎつけた大平新内閣は、文相への田川(新自ク)起用の打診にみられるように「部分連合」の道に一步ふみだすことによつてしか自己の難局をのりきることができず、これがふたたび自民党内抗争の火種となつた。

席減、社会党の歴史的ちよう落、そして社会党をのぞく公民共「反自民」勢力の現状維持と一定の伸長という事態が進行した。これらのことがらは資本主義の一大危機の繼續を内圧とした慢性的の政府危機のよりいつきとろうとしている。ブルジョアジーは民主党分裂、社会党分裂といふ事態をも予想して、さしあたり「中道四党」と社会党右派を対象とした連合政府構想を急速度で準備せざるをえなくなつてゐる。

だがしかしそれはブルジョアジーにとって根底的危機を意味しない。なぜならこんにち安保・自衛隊、財政再建、エネルギー・石油問題など日本帝国主義にとつて死活にかかわる諸政策について、自民、中道四党、社会党右派のあいだには原則上の合意がすでにできあがつてしまつてゐるからである。全通、全電通、國労を窓口にして、衆院選において公明党との選挙協力をすすめた社会党が、十月十六日、総評とともに社公中軸路線の強化を提倡し、それと一体のものとして「安保・原子力のみなし」をうちだしたこととは、この典型的な事例である。十月衆院選で自民は完敗したが、それは必ずしもブルジョアジーの政治基盤の後退を意味しなかつたのである。むしろ彼らは衆院選とその後の過程をつうじて、非自民勢力の政治的とりこみに成功し自己の基盤を強化したといえる。したがつてこんにちふたたび騒々しくもちだされはじめている連合政権構想は、それがいかなる組合せのものであれブルジョアジー階級との「連合」を基礎としたブルジョアジーの政権の別名にほかならない。それは資本主義の延命のために人民をブルジョア議会制の最後の幻惑につなぎとめ、国家権力の反革命的再編と戦争とファシズムの準備に人民を組みこんでゆくための強力な政治手段なのである。

他方、日共は「政権連合なら安保廃棄など革新三目標による合意が前提だ」(不破)といふ立場から、社会党協会派とともに一定の独自的位置をつくつてゆくであろうが、この部分もまた資本主義の危機の救済とその改良を党是的立場にするという点で、中道四党、社会党右派の動向と本質的に変わるものではない。むしろ「社会主義」をかかげる中間連合政府派として、特別に危険な性格を増大させてゆくのは必至である。

こうして八〇年参院選をブルジョア政治過程上の焦点としながら、敵(帝・社帝)の中間連合政府構想をおしたてての政治攻勢が日々つよまつてゐるのであるが、しかし「中間連合政府」はけつして人民支配の万能薬ではない。それは深まりゆく資本主義の矛盾の重圧のなかで、改良の約束を空文句に化し、不斷に人民に資本主義を救う道か、打ち

たおず道かの選択を問うことによつて、いやとうなく人民の政治的分解と成長をうながし、ついには帝国主義と社会帝国主義から独立した広範な人民の戦闘的潮流を生みだしてゆくにちがいないからである。

八〇年代は中間連合政権構想が全面开花する時代である。もはやブルジョアジーは六年代の池田、佐藤とつづく比較的長期の安定した自民党単独政権はもちろん、七〇年代の佐藤、田中、三木、福田、大平と五つを数える小ささみの政権継投によつてすら自己の支配を維持できない。八〇年代への入口で短命政権としての烙印を背負つて出発した第二次大平政権の使命は、大胆に連合をうちだし深まる政治危機を回避してゆくところにある。しかしそれは革命的危機への移行のほんの一過渡をなすにすぎず、それゆえにこそ大平政権は危機感にかられて歴代の自民党政権のうちでもっとも狡猾、陰湿、ペテン的な性格をあらわにしながら、この過渡期をブルジョア階級独裁の利害にそつてきりひらくべく、中間連合政府攻撃下での戦争とファシズム準備に血道をあげてゐるのである。

日帝リ大平の日本階級闘争にたいする攻撃は次の諸点を中軸にするものである。

第一に八〇年安保の攻撃である。日米安保の即戦化、実戦化をねらつて日米共同作戦体制を強化し、他方で防衛二法の八〇年改悪を画策しながら、いよいよ日帝は自力でも侵略反革命戦争を遂行しうる軍事力と国家体制をつくりあげようと野望している。それはアジア人民、とりわけ日帝の生命線をなす南朝鮮の「朴なき維新体制」下でたたかいつづける人民への直接の敵対宣言である。

第二に予防反革命的治安弾圧体制の強化である。ブルジョア法廷においては「革命思想」「革命組織」は犯罪であるの一点にもとづく死刑重刑攻撃が常態化している。十一月十三日、東京地裁は東アジア反日武装戦線の被告が全国各地でくりひろげられるなど、内乱と武装蜂起の鎮圧をも射程に入れた全社会的な武力弾圧体制が強化されている。

第三に労働運動の産業報国会化の攻撃である。現段階でそれは社帝既成指導部を動員しての労働戦線の右翼的統一、公労協解体策動を両輪にして進行している。総選挙後の十月十三日、全通、全電通、鉄鋼労連、ゼンセン同盟、電機労連などで構成される労働問題研究会は、「国際自由労連加盟」など四つの原則を労戦統一の基準にすることを申しあわせ、また八〇国民春闘共闘会議も労働四団体共闘復活を方針化するなど、「八〇年代前半は連合政権構想の時代である」(富塚)を共通認識にして、社帝労組幹部たちによる戦後日本労働運動の反動的解体と再編がもくろまれて

る。

第四に三里塚・狹山に代表される人民闘争の鎮圧と解体の策動である。三里塚軍事空港の建設が農地強奪を不可避としたようになり、帝国主義の戦争準備、ファシズム準備は人民の生活破壊、既得権の剝奪、そして人民分断をともなつて進行する。帝国主義はこれにたいする人民の抵抗を各個撃破し、排外主義のもと化している。三里塚二期工事着工、狹山再審棄却の攻撃は、日帝・大平政権のもとでよりいつそう激化するであろう。

第三回 手取りの強化と内閣改組  
部門をつらぬく合理化攻撃、一般消費税導入と増税路線は大平新体制のもとでもまつたく変わりはない。一大産業再編（スクランブル・アンド・ビルド）と国家財政再建は、ひきつき大平の緊要課題であり、これをブルジョアジーは労働者人民への強搾取・強収奪をもつて強行突破しようとしているのである。

かかる攻撃のもとで前進をつづける日本階級闘争は、戦争とファシズムの血の海に人民を沈めんとする敵の政治攻撃と正面対決する立場を、いまやますます鮮明にうちだしてゆくことを要求されはじめている。そしてそれは改良政府の幻惑を階級闘争の内部から一掃し、社共にかわる革命的指導部をうちたててしまふたたかいを不可欠にしているのである。

## 「革命の旗」派批判

望が急速に衆院選→参院選の政治過程に収約されていく構造に現下のわが国の階級闘争の現状はある。では八〇年代階級闘争の中心は何であるのか。それは諸派の「八〇年代革愈の展望」「八〇年決戦」（中核派）のごとくでは決定的にせまいのである。何よりも、世界党建設をめぐる国際党派闘争に現代過渡期世界止揚の階級闘争の最高の地平が求められねばならないのであり、中国→ベトナム戦争に示された国際共産主義運動の大分裂の新たな局面の領導こそ、現代共産主義者の中心的任務であり、今日的課題なのである。歴史的には、三〇年代敗北の最も奥深い根源は、コミニテルンの変質と解体にこそ求められねばならないからである。

八〇年代こそは何よりも権力をめぐる闘争の一時代であり、敵の戦争とファシズム準備一ブルジョア権力再編成の一時代としてあり、これに總体として投降し、屈服していくのか否かの厳しい党派的・一大再編成の時代である。日本革命の路線は、一国プロ独立権力の性格と任務をめぐって立てられねばならず、國際黨

派闘争のなかにしつかりと措定されねばならない。そしてそれは、レーニンがそうしたよ  
うに自國の革命運動の發展の特殊的現状に踏  
まえながらも、一國革命の準備は世界革命の  
準備と切斷されてはありえないものである。

本年七月 M L 派と遊撃派の党派合同によつ  
て「共産同（革命の旗）」が結成された。こ  
れはブンド系の右からの再編であり、サーク  
ル主義の大同団結である。われわれは、彼ら  
の路線的根幹を明らかにし、真正面からの党  
派闘争、それゆえの路線闘争で応えてゆかね  
ばならない。革命の旗派は、この八十年代と  
いう革命的危機への移行の開始の時代に咲い  
た新たな解党主義である。

革命の旗派は、われわれの“非武装啓蒙運動”といふ批判に対し大胆にも次のように  
言ひ放つてゐる「武装蜂起までは組織は非武  
装だ、革命までは啓蒙だ」と。彼らは口先で  
は非法党建設は認めるが、實際はレーニン  
が一九〇五年革命後の反動の時代にあつて全  
力をあげてたたかつた解党主義である。レー  
ニンは次のように述べた。「解党主義の核心  
はどこにあるのか。この核心は『地下組織』  
の否認、その解消といふことになり、地下組  
織をせがひでも適法性の枠内での無定形な結  
合体ととりかえるところにある。したがつて  
党はけつして合法的活動を非難しているので  
も、それが必要であることを非難していくの  
でもない。党は古い党となにかある無定形な  
『公然』の、党とは呼べないようなものとと  
りかえようとするのを非難している」（論  
争問題一公然の党とマルクス主義者）。レーニ  
ンは一九〇五年革命の総括を通して、蜂起一  
プロ独の組織的準備を革命的プロレタリアー  
トの党の組織的内実として掲げ、まさにこの  
点をめぐつて解党主義者達とたたかつたので  
ある。蜂起やプロ独を口先で認めて、その  
組織的準備を否定するものは解党主義である  
そしてそれは合法マルクス主義一經濟主義へ  
の路線的転落に基盤をおいてゐる。

「六九年七・六事件を契機として第二次ブ  
ンドは急進民主主義のテロリズムと經濟主義  
に引き裂かれ太分派闘争の時代に突入した。  
しかしこの分裂は七二年連合赤軍事件等をテ  
コに、七四一七五年からマルクス・レーニン  
主義と急進民主主義の分裂、対立へと質的に  
転化した。つまりブンドのマルクス・レーニ  
ン主義的側面が成長・発展し、様々なマルク  
ス・レーニン主義分派が各々の地点で急進民  
主主義との闘争を通じて結成をたたかいつ  
たのである」（革命の旗二号）。彼らの「統  
合」は自己の解党主義としての過去を合理化  
し、正当化した。彼らの「テロリズムと經濟  
主義への分裂」なる規定は、結局のところ経  
濟主義批判を急進民主主義批判にすりかえ、  
右翼日和見主義としての脱走を正当化してい  
る。そして、M L 派はその前身としての赤軍

派のレーニン主義的な結括の道をアーリズムの一言をもつて完全に投げ捨てた。十二・一八一全国委をめぐる加納一派との闘争をもつて、ブンド党内・分派闘争は“レーニン主義前衛党の道か—右翼日和見主義の道か”といわブンド党建設上の二つの道へと発展した（烽火三〇一号参照）。このように発展したからこそ加納一派は「新日本運動」なる現代ファシズム運動に自己の命運を見し出す以外になくなつたのだ。革命の旗派は、この二つの路線を和解させ、この根本的対立をプロレタリアートの眼前からおおいからそうとするのだ。まずわれわれは彼らのブンド党内・分派闘争上の位置を明らかにしてきた。それはまぎれもなく解党主義反対派の大連合である。

次にその主張の中心をなす「統合の六条件」への批判を、今回は基軸的に明らかにしてゆくこととする。「統合の六条件」とは「I、ブンドの急進民主主義の清算 II、反スターロツキズム批判—毛沢東思想支持 III、反ソ反米反霸權の國際路線、安保粉碎、日帝打倒の認識。V、プロ独立社会主義革命の宣伝・扇動を経済闘争、民主主義闘争のなかに持ち込む。VI、工場細胞を基礎とする中央集権主義の党」である。

第一にレーニン主義の今日的継承と国際共産主義運動上の原則的立場についてである。彼らはブンド党内一分派闘争総括、その対立の中心を急進民主主義→マルクスレーニン主義と総括する。それはわれわれの右翼日和見主義との闘争に総括の中心をおくこととまったく対立する。この点はすでに述べてきた。しかしことにとどまらず、レーニン主義を、急進民主主義との闘争において基礎づけることで、国際共産主義運動上の合法マルクス主義・経済主義への党的屈服としての自己の位置を確定してしまつてゐる。

この点は、毛沢東評価によくあらわれている。彼らは現代過渡期世界における毛沢東の位置を反スタートロツキズムとの闘争という点でのみ把えてゐる。しかし中国革命路線は実際上そのような緊張関係からではなく、むしろ当時のコミニテルン指導ースターリンによる指導路線との分岐を通じて形成されたのである。現中国路線の止揚、発展の方向はまさにここにあるのだが、彼らはこの点を完全に斜断してしまふ。毛沢東思想を歪曲し、経済主義とせつちゅうさせてゐる。

第二に現代過渡期世界と社会主義革命の把握について。「ソ連が社会帝国主義になつた」ことの一般的確認をもつて「社会主义中国の支持」を体制間矛盾論の立場の密輸入によつてなし、かかる見地から「三つの世界論」を援用している。彼らは反霸權闘争を「世界革命の当面する主要な任務」にまで拡大し、一国におけるプロレタリア権力を世界党の建設

と結合することに敵対して、世界革命を党からではなく国家の恣口から把えて、民族国家とその政策の外延的拡大に「世界革命」を求める。

われわれは、世界プロ独が一国革命の断固たる推進の上に立てられねばならないこと、それゆえにまた一国権力はプロレタリア独裁権力として組織されねばならないことを主張してきた。革命の旗派は、世界プロ独、世界党の主張が「観念的反スタトロツキズム」であるとなで切つて、スターリン「一国社会主義」の承認か否かにこの点の対立を歪曲しているのである。

第三に、レーニン主義「計画としての戦術」と非合法党建設についてである。彼らの「計画としての戦術」とは、あるがままの「即ちその多くがまだ社帝一労働手代の手にゆだねられた」経済闘争、民主主義闘争のなかに宣伝、扇動をもちこむことである。しかし経済闘争、民主主義闘争はプロの階級闘争の条件であり、これをプロの目的意識的な階級闘争に転化させることなのである。彼らの「もちは込む」なる主張は必ずや「民主主義政府にプロ独、社会主義をもちこもう」なるものに行きつかざるをえない。

彼らの「計画としての戦術」なるものは、党による武装蜂起一プロ独の組織的準備とは切り離されたものであることがわかつた。しかものうちに主張される「工場細胞」とは、蜂起とプロ独の機関ではなくて、労働組合運動と結合の機能であり、全国政治新聞の配布網であり、非武装啓蒙組織である。

彼らは、國際党派闘争の発展に敵対し、中間連合政府派への屈服の道を歩む者達である。かかる路線は敗北の道でありけつして社帝一右翼日和見主義のくびきからプロレタリアートを解き放ち、革命的プロレタリアートへと建設していく社会主義革命の事業を勝利させることはできないのだ。

われわれは新たな解党主義=革命の旗派を批判し、指令部・伝導路建設戦の第二歩を現下の階級流動のなかに大胆に刻印せん。八〇年へと至るわれわれの任務を明らかにしてゆこう。

第一に、十二・一六現地闘争を中心とした三里塚二期工区決戦勝利を掲げた全人民的政治的決起を領導せよ。二期工区決戦を八〇年安保一労働運動の産業報国会化とたたかう全人民の大戦闘拠点とし、たたかい抜け。対話攻撃とたたかい、形成されつつある反対同盟の

新たな気運と活性化にしつかりと結びつき、闘争内部の中間連合政府派とたたかい三里塚闘争勝利の進路をさし示せ。革命的政治闘争を強化・発展させよ。

第二に、なだれりつ労戦統一、総評労働運動の内部からの産報化への行進はとどまることを知らない。「労働運動の産報化とたたかい抜け」この旗のもと労働運動の大衆的分裂を組織せよ。反合闘争の戦場で、未組織労働者のたたかいの戦場で労働組合リプロレタリアートの第一次的團結形態の内部から經濟闘争と政治闘争の目的意識的な結合を創出せよ。

第三に、急速に進行する党派再編のなかに大胆に突撃し、路線闘争をおし進めよ。プロ党派闘争を強力におし進め、中央集権非合法党建設への戦闘的プロレタリア人民の結集をたたかいたれ。

全国の同志諸君、開始された激動の一時代を指令部・伝導路建設の第二歩をもつて開始せよ。全党を代表する党员、党组织建設事業を大いに前進させよ。民主主義闘争、經濟闘争へ先進的プロレタリアートを出撃させ、大衆を社帝・右翼日和見主義のくびきから解放せよ！



## 戸村一作委員長の死を悼む

### 三里塚芝山連合空港反対同盟

十一月二日、三里塚芝山連合空港反対同盟委員長・戸村一作氏がたたかいのなかばにして逝去された。われわれは心から哀悼の意をあらわすとともに、戸村委員長の無念と遺志をうけつぎ、侵略反革命軍事空港粉碎・二期工事阻止の旗を掲げ新たな進撃を誓う。

戸村委員長は、六六年三里塚空港の閣議決定に際し、反対同盟の委員長に推され、以降十四年間一貫して反対同盟農民の先頭にたつて空港反対闘争を指導してきた。六八年二・二六闘争においては、警棒の乱打に抗し権力との激闘の最前線を担い、また第一次、第二次強制執行阻止一鉄塔決戦一開港阻止決戦とたたかいの最先頭に立ってきた。

戸村委員長は闘争の最前線にたつと同時に全国の人民のあらゆる闘争と三里塚闘争を結びつけ、三里塚闘争を反権力反政府闘争の拠点へと打ち固めるとともに、「飛行機をベトナムに飛ばすな」のスローガンに示される闘争の國際主義的性格、全人民的性質を強調し、

たたかいを全世界人民のたたかいと結びつける先頭にたつた。われわれの六七年以降の、当時の全学連、反戦青年委員会をもつて開始した三里塚闘争への決起もまた、かかる戸村委員長の東奔西走と全人民的闘争への努力ぬきにありえなかつたであろう。

現在日帝一公団は、森山発言にみられる対話攻撃を手はじめに反対闘争とその組織を破壊し日本階級闘争の鎮静化を狙うとともに、部分開港を既成事実化し二期工事強行着工にむけた攻撃をうちおろしていく。これに対する反撃戦は九・一六闘争をもって火ぶたが切られた。われわれは「三里塚にもどつて再び権力とたたかいたい」と言い続けた戸村委員長の闘魂をうけつぎ、侵略反革命軍事空港粉碎！二期工事阻止！へと真っしぐらに進撃する。そして三里塚闘争の切り拓いた地平を、日帝打倒と社会主義革命の勝利にむけてさら前に進ませることを誓う。

戸村氏が10・21集会に寄せたメッセージ

反対同盟委員長 戸村一作  
十月十九日（病床より）

いま三里塚の農民にとって必要なことは、革命的なたたかいの魂ではないでしょうか。  
十四年間たたかい続けてきた戦いの精神にたちもどらなければならぬい。  
三里塚と勤労千葉の革命的連帯こそ勝利の道だと私は思う。この道こそ八〇年代の日本を革命にまで導く不可欠のものです。皆さんがんばつてください。  
三里塚に戻つて再び権力とたたかいたい。権力に大あわをふかせるような爽快なたたかいをやらすしてどうしていられようか。  
皆さんがんばつてください。  
石橋さん、手を固く握り合つてください。  
二期工区内の皆さんのがんばつてください。  
三里塚は日々勝利しているのです。そしてかならず勝利するのだ。このまま空港をご覧なさい。われわれの聞いは目前で敵権力を圧倒しているではありませんか。  
同志よ、手を固く握り合つて心を一つにして最後の勝利まで戦い抜きましょう。

集会は一五〇〇名の結集をもつてたたかいとられた。この集会のなでわれわれは、反戦闘争を「城内平和」にむけた改良政府の要求へと収約せんとする社帝の策動を粉碎し、朝鮮人民との連帯をかかげ沖縄の直接出撃拠点化攻撃粉碎を訴え、「日帝の朝鮮侵略反革命を内戦へ！」の国際主義のスローガンのもとにたたかいぬいた。

一方、年末から年始に油入れがくろまれるCTS闘争は、いま

CTS・年末油入れ阻止

# 沖縄

10・21十余三(敷地内)に大結集す!

全国から12・16現地(1時・第一公園)へ

# 三里塚

の皆さん。同志、友人の皆さん、烽火読者  
十・二・一闘争は、九・一六闘争  
区決戦を八〇年安  
と、三里塚二期工  
社帝打倒の願のも

十・二一闘争は、九・一六闘争を上回る二万余の大結集で貫徹された。反対同盟連月闘争の第二歩

社帝打倒の旗のもと、三里塚二期工区決戦を八〇年安  
保一産報化とたをかう全人民の一大

つくり出した。南朝鮮人民の英雄アシズム準備に総対決する三里塚的決起と連帶し、日帝の戦争とフ

力強く訴え、さらに現下の党派再編に対する中間連合



決意表明にたつ婦人行動隊

闘争の一大布陣は着々と固められている。十二・二一闘争は、三里塚第一公園の前段集会、空港南側の飛行実力阻止と結合した敷地内十三大集会—デモとして打ちぬかれた。台風一過、雨雲は吹き飛ばされ、真青な大空が広がつてゐる。反対同盟員が二期工区内農民の激励を貫徹し、集会場へ結集していく。

政府派との分岐を鮮明に提起した。われわれの意気は本集会が熱気の内田行動隊長から橋副委員長は「十阻止に向かうこと、「鉄路を武器に農民は土地を武器事空港を発港する」と。

本集会にのぞむ  
盛んである。  
うちに始まつた。  
の集会宣言。石  
余三集会が二期  
を示す」とし、  
をからう勤労千葉、  
にたたかい、軍  
士忍草母の会、日本原農民、さら  
長は、勤労中央・革マルとたたか  
い、十・二二の十二時間ストを準  
備し決起したことを表明し、国鉄  
三十五万人体制粉碎、貨車輸送阻  
止、二期工事阻止を掲げてたたか  
うこと力を強く宣言した。続いて  
関西新空港反対のたたかい、北富  
士駅構改同盟、全算連とはまくら  
」と挨拶を行な

左進白大衆が注視するなかで  
わが反帝戦線（全国委）は三社共  
闘との前段統一集会を貫徹し、帝

北原事務局長が  
た。まず戸村委員

基調報告に立つ  
長の熱烈なアピ  
ルが万雷の拍手  
表明である。長谷川たけ婦人行動  
としてアピールが行なわれた。  
最後にいよいよ反対同盟の決意

A black and white photograph capturing a massive outdoor gathering of people. The scene is densely packed with individuals, many of whom are wearing hats, suggesting a protest or a significant public event. The crowd extends from the foreground into the middle ground, where more people can be seen. In the background, there are several buildings of varying heights and architectural styles, along with some trees. The overall atmosphere appears to be one of a large-scale public gathering or demonstration.

十金三会場に？万金

からの飛行は寸断されたのだ。

針が提起された。盟員各戸には赤旗が翻つてゐる。空を見ると、飛行機が北側から離着陸し始めた。南側二期工区決戦の勝利へ！

# 狹山

# 再審勝利に向け80年1月決戦へ

## 10・31明治公園に3万5千人が決起

・九検察意見書のペテン性差別性をあきらかにするとともに、こんにち仮出獄路線をかけて、狹山闘争の全人民的政治的発展に敵対する社帝・右翼日和見主義との闘争の重要性を提起した。そして最後に日共が京都で策動する差別映画「橋のない川」上映を糾弾阻止してゆくという決意表明がなされた。最後に反帝戦線の同志が発言に立った。同志は、戦争とファシズムの準備、生活破壊とつよまる部落差別の嵐に抗し、社帝・融和主義者たちとの闘争を強化し、権力打倒と部落完全解放の大膽な進撃を開始しなければならないこと、八年安保・産業報国会化攻撃と対決し、アジア人民との、とりわけ

たたかひぬかれた。この日、全体集会に先だつて反帝戦線の独自集会がおこなわれた。まず司会者から「十・九検察意見書を弾劾し、高裁の年内棄却策動を許さず、再審闘争勝利の一大突破口として本日の闘争をたたかおう」と呼びかけがなされた。最初に発言に立った三里塚現闘の同志は狹山闘争とならぶ三里塚二期工区決戦の緊迫性を訴え、さらに労千葉の十二・一第二波ストを支援防衛し、労農連帯をさらに発展させようと訴えた。つづいて京都本支部と部落解放北区共闘とともに狹山糾弾実の仲間は、京都府連千

弾・狹山再審闘争勝利の中央闘争が、明治公園に三万五千名を結集してたたかわれた。部落解放同盟を先頭にした全国のたたかう労働者人民は、これに先立つ十・二三には全国一斉情宣、十・三〇には全国一斉ゼッケン登校闘争を、そして二八日からは東京高裁前座り込み闘争などをたたかいぬいた。十・二九から三一まで連続した高裁への再審開始を求める要請行動は、二七名もの不当逮捕者を出しながらも、最後まで

動判決を徹底弾劾し、CTS阻止の決意も固くたたかいた。公判は、まず安里世話人代表と花城与那城村議が三・二九一審判決の不當性と現地状況について意見陳述し、控訴趣意書を高裁につきつ

けた。趣意書は、①島尻粘土層の支持力②埋め立て粘土層の支持力の算定③粘土質地盤の圧密の非可逆性④圧密時間算定⑤タンクの腐食⑥耐風圧設計⑦耐震設計⑧タンカーアクシデントなどに關

する判断、の八項目にわたつて二審判決を批判し、CTS埋立地の土質の軟弱性と事故の危険性を全面的に明らかにした。

万キロ容認」をもつて敵対する社帝との路線闘争をおしすすめ、「金武湾を守る会」と連帯し、今年末CTS油入れ阻止の勝利をたたかへとれ！



明治公園を埋めつくした3万5千の大衆  
壇上右端は彫刻家・金城実氏(10.31)

部落解放運動と反差別共同闘争の前進にむけて狹山闘争に力をつくさねばならないこと、高裁を包囲する大衆的闘争の陣型を年内に築きあげ、決定的重大な時期に全国一斉同盟休校闘争、ストライキ、同盟休業でたたかおうとよびかけた。ついで狹山弁護団、差別をとめたから文化会議の金城実氏、全国同和教育協議会から谷内委員長、全日農青年部より加瀬勉氏、全障連八木下委員長などからあいさつがおこなわれた。

そして万雷の拍手のなか狹山支部の石川操さんが獄中の石川氏のメッセージを読みあげた。石川氏

不屈にたたかうから南朝鮮人民との国際主義的連帯をうぢかためてゆくことは、部落解放運動の前進にとつても決定的に重大であることを提起し、十・三一から一・二八へといたる死闘の三ヶ月をともに全力でたたかおうと力づよく訴えた。全体集会は、午後二時開催された。主催者を代表しての隈元中央共闘事務局長、松井部落解放同盟委員長のあいさつにつづき、狹山氏をおこなう。西岡氏は八〇年代の

する判断、の八項目にわたつて一審判決を批判し、CTS埋立地の土質の軟弱性と事故の危険性を全面的に明らかにした。

そして石川氏の御両親のあいさつ、解放子供会の代表の決意表明ののち、「反差別・反権力・反フアンショ・自立自鬪の狭山思想を一人ひとりの胸に燃えさせ、階級的団結をもつて共同闘争を強化し、東京高裁に事実調べをおこなえ」と肉迫する闘いをつくりあげよう」との集会決議を全体で確認したのち、首都をゆるがす大デモがたたかれたのである。

十・三一の成果をふまえ、年内再審棄却阻止！八〇年一月狭山決戦勝利！一・二八首都総決起をともにたたかおう。

# 電タ二万人合理化ゆるすな

## 電通労働運動内部に革命的指導部を

全国のたたかう労働者のみなさん。とりわけ電通労働者のみなさん。日帝ブルジョアジーは戦後日本労働運動の根底的再編を、労働運動の産業報国会化へむけておしすすめんとしている。それは首切り合理化、労働強化、搾取と収奪の強化、総じて労働者の肉体と生活の破壊をともなつて進行してゐる。ブルジョアジーはこんにち民間において一定の成功をおさめた「減量経営」という名の合理化攻撃を、「行政改革—行政の簡素化と行政費の削減」をかけつつ官公労関係にまで一挙におしひろげようとしている。自治体、郵政、

国鉄などで大巾な人員削減計画がうちだされている。

電々公社においては第六次合理化計画にもとづく攻撃が日々進行している。それは電信、電話運用、の排除と安定した職場の確保」を營業部門を中心として八二年末までに二万人合理化を完成せんとするものである。公社はとりわけ電信、電話運用の二部門のスクラップ化をおしすすめつつ、国際競争、市場開拓に重点をおいて「情報通信産業」としての再編・確立をめざすとともに、他方で「有事」のための軍事通信網の再編と強化をもくろんでいる。電々六次合二万人合理化は、はつきりと侵略

のあり方」「働き方」について、電信、電話運用の二部門のスクラップ化をおしすすめつつ、国際競争、市場開拓に重点をおいて「情報通信産業」としての再編・確立をめざすとともに、他方で「有事」のための軍事通信網の再編と強化をもくろんでいる。電々六次合二万人合理化は、はつきりと侵略

のあり方」「働き方」について、電信、電話運用の二部門のスクラップ化をおしすすめつつ、国際競争、市場開拓に重点をおいて「情報通信産業」としての再編・確立をめざすとともに、他方で「有事」のための軍事通信網の再編と強化をもくろんでいる。電々六次合二万人合理化は、はつきりと侵略

反革命遂行のための一大産業再編の一重要な一角に位置しているのだ。社の合理化攻撃をしつた激励しては七八年までに七千名以上のケイワシング病者が多発している現状があり、公社はこれらの労働者の強制配転と首切りを準備しているのであるが、電通民同はこの攻撃にもろ手をあげて合流し、第三回全国大会において、ケイワシング病者の大半は治ゆし、年々激減の傾向をしめしているなどと、ゆるすまじきキャンペーンをはつたのである。

われわれはこれと対決し、職場労組の政策能力をたかめ「参加」のすみすみから大衆的反撃の烽火をいまこそ組織してゆかねばならない。

沼地へと導かんとしている。そのような立場から、電報部門の大巾縮小、「新サービスの創出」とい化したこと。つづく民主商工会か化したこと。つづく民主商工会か還こそが裁判の争点であることを示した。

## 片平氏、差別体験と闘争の自己史を証言

### 有罪攻撃うち碎き公判闘争の勝利へ

片平闘争

弾壓裁判糾弾闘争||片平公判闘争は、十月二二日、第二四回公判より「被告」証言に突入した。それは、野間裁判長のうちおろした「被告」取り調べ三回、求刑一二月一日、最終意見陳述一二月二六日といふ公判日程の指定、実質上の審理制限||早期結審策動に対する先頭につつ決意に燃えた片平氏により、検察、裁判所の野望を打ち砕く、自身のたたかひの歴史が証言された。

やけどした時も、ボリオにり患した時も、貧しさ故に治療できなかつたこと、両親が、片平氏を理由に親族会議で家督権を奪われたこと、一年間の就学猶予と以降の学校生活での差別と學習権のハク奪、高卒時の進路指導の放置、職安や福祉事務所の差別対応、職業訓練所での差別、内定した就職の取り消し、「在宅」の苦しみ、雇用の差別のことごとくを容認し、公

用奨励費をうけている事務所による奴隸扱いへの抗議、賃上げ要求、そして解雇、生地での生活難から上阪という体験が証言された。証言は、片平氏のたたかひが、権力者、野間裁判長のうちおろした「被告」取り調べ三回、求刑一二月一日、最終意見陳述一二月二六日や日共のいう片平氏の個人的資質や条件というより、人間らしい生活を求める「障害者」がひとしく直面する差別の現実と体験から生みだされたものにほかならないこと

つづく十一月十四日、第二五回公判では、上阪後、堺養護に就職するまでの片平氏の苦闘と堺養護の生活、そして、一・二八までの差別不当解雇撤回闘争の状況が証言された。

裁判所一権力は、このよくな

痛という二重の絶望の下に呻吟するが、再度、生活保護ではなく能回復」を求めた入院生活での苦悶らくことを求めて必死で職探しをしたことなど、「障害者」をはじめ、多くの被差別人民

平氏の証言とたたかひが、「障害者」をはじめ、多くの被差別人民の証言とその破棄」や、早瀬の継続雇用の口頭契約と山本による破棄、活権奪還をかけ、多くの「障害者」、労働者人民の連帯と共闘を

裁判所一権力は、このよくな

痛という二重の絶望の下に呻吟するが、再度、生活保護ではなく能回復」を求めた入院生活での苦悶らくことを求めて必死で職探しをしたことなど、「障害者」をはじめ、多くの被差別人民の証言とその破棄」や、早瀬の継続雇用の口頭契約と山本による破棄、活権奪還をかけ、多くの「障害者」、労働者人民の連帯と共闘を

裁判所一権力は、このよくな

痛という二重の絶望の下に呻吟するが、再度、生活保護ではなく能回復」を求めた入院生活での苦悶らくことを求めて必死で職探しをしたことなど、「障害者」をはじめ、多くの被差別人民の証言とその破棄」や、